

一般社団法人 日本動物実験代替法学会

2022 年度事業報告

(第 1 期：2022 年 1 月～8 月)

理事長 板垣 宏

総務担当理事 豊田 明美

I. 役員構成

1. 法人 役員構成

理事長 (代表理事)	板垣 宏
副理事長	藤堂 浩明
理事_総務	豊田 明美
理事_企画	山下 邦彦
理事_編集	石田 誠一
理事_広報・3Rs 啓発	秋田 正治
理事_国際交流・広報 (国際関係)	小島 肇
理事_会計・財務	笠原 利彦
理事_学術	諫田 泰成
理事_SDGs 推進 WG	古川 克子
監事	宮崎 博之
監事	渡辺 美香

2. 大会長

第 35 回大会長 (2022 年)	吉成 浩一
第 36 回大会長 (2023 年)	伊藤 晃成

3. 委員会・ワーキンググループ (WG) 委員長

総務委員会	安保 孝幸
企画委員会	池田 英史
編集委員会	古水 雄志
広報委員会	石井 宏
国際交流委員会	畑尾 正人
財務委員会	梅下 和彦
学術委員会	福田 淳二
3Rs 啓発委員会	小島 伸彦
SDGs 推進 WG	古川 克子
WEB 企画検討 WG	小森 喜久夫

II. 活動方針

1. 学術的支援活動

1) 講演会等

動物実験代替法の普及促進のため、代替法に関する最新のトピックスに沿ったシンポジウム形式の講演会を8月25日に実施し150名の参加を得た。

Reduction、Refinement 及び Replacement の3Rsの更なる推進と普及を目指し、他学会等と連携したシンポジウムやプロジェクトを企画した。

[シンポジウム]

第95回日本薬理学会年会(22年3月)及び第49回日本毒性学会年会(22年6月)

[共催 招待講演セッション]

化学とマイクロ・ナノシステム学会第45回研究会(22年5月)

2) 技術講習会

OECDテストガイドラインに記載された試験の技術習得促進のため、2023年1月にADRA講習会を開催予定、それに向けた準備を開始した。

3) その他

MPS(Micro-physiological system)の研究推進を学会として支援すべく、2022年度内にワーキンググループの設置を予定していたが、設置は2023年度以降に延期された。

2. 国際交流活動

1) Asian Federation

アジアにおける動物実験代替法の普及促進のため、畑尾委員長を中心にKSAAE(The Korean Society for Alternatives to Animal Experiments), TATT(Toxicology Alternatives and Translational Toxicology), SAAE-I(Society for Alternatives to Animal Experiments-India)などと連携しながら、2022年12月に韓国で開催される3回アジア動物実験代替法学会(Asian Congress)でのAsian Federationの調印を目標に、web会議等で合意に向けて調整した。

2) 3Rsを念頭に、欧米との交流を継続

ESTIV(European Society of Toxicology in Vitro)との連携を深めるため、2022年11月21-25日に開催されるESTIV2022大会において合同セッションに向けた準備を行った。なお、EUSAAT(European Society for Alternatives to Animal Testing)、ASCCT(The American Society for Cellular and Computational Toxicology)など海外の学会にも委員が参加する予定である。

3) 会員への国際情報発信を強化

国際情報を積極的に収集し、メールニュースで国際情報を毎月会員に発信した。

また、広報委員会および3Rs啓発委員会とともに、HPでチャンレンジコンテストを海外に発信した。

4) Asian Congressへのトラベルアワードの選考

公募を行うため、準備を進めた。

5) 大会シンポジウムを企画・準備

大会における国際シンポジウムのタイトル「感作性および光感作性試験の国際動向」と定め、演者を選んだ。

3. 3Rs 啓発活動

1) 出前講義

60分程度の講義を想定した出前講義用の基本スライドセット40枚（原稿付）を作成し、当初の目標どおり、3件の出前講義を行った。

- ▶ 公益社団法人日本動物福祉協会様からのオンデマンド講義の依頼を受け、共通スライドセットを使って動画を作成し、7月上旬に提出した（講師：秋田担当理事）。
- ▶ 基本スライドセットをもとに7月7日に東京大学大学院工学研究科で出前講義を行った（講師：秋田担当理事）。
- ▶ 8月18日に開催されたチャレンジコンテスト2022において、基本スライドセットを改変した構成で30分の出前講義を行った（講師：徳永委員）。

2) チャレンジコンテスト

学会ホームページにチャレンジコンテストのページを設置した。2022年8月18日にプレ大会を開催し、運営の仕方や企業賞などについて検討した。更に、2023年のチャレンジコンテスト本格再開に向けて、プレ大会の大会報告などを現在も作成している。

3) 新規啓発活動立案

企業会員の増加を目的として、企業座談会を企画した。座談会のテーマ設定や座談会内容の広報的な活用などを先方企業と打ち合わせを行った。開催に向けた準備は完了したが、コロナ感染者急増のために8月中の開催は延期となっている。

4. 出版活動

1) 学会誌の発行

学会誌「Alternative to animal testing and experimentation (AATEX)」第27巻1号を発行した。AATEX-JACVAM Vol.11 No.1の原稿データを受け取り、校正を進めた。

一方、PMC 掲載関係の対応として、AATEXの学会HP(英語)のEditorial Bord、投稿規定の更新を行った。引き続き、PMC 掲載に関する手続きを進めた。

2) ニュースレターの発行

第一期（2022年1月～8月）に第71号（7月）を発行した。

5. 広報活動

メールニュースや海外関連団体情報について合計29回発信し、また、学会ホームページの更新を通じて、会員および外部に向けての情報発信を行った。さらに、学会ホームページの更なる利便性の向上を目指し、ホームページ改訂内容の検討及び業者選定を実施した。

6. 財務活動

1) 法人化対応

法人化に伴い監査費用が増加するため、公認会計士から税理士に変更し契約を結んだ。今後、監査業務だけでなく、税金対応、インボイス制度の導入検討など、専門家の立場からアドバイスをいただけることを確約することができた。

2) 会員および賛助会員の増加

年大会における賛助会員の特典を増やした（ゴールド会員：抄録広告の割引特典の追加）。関係企業及び団体への勧誘活動実施し、16社の企業様に賛助会員に加入をしていただいた。（ゴールド…8社様、シルバー…8社様）

3) 未納者数の削減

年会費のSMBCの振り込み用紙を採用し、コンビニでの振り込みを可能にした。また、2021年までの未納者（58人）に複数回の声掛けを実施した。

7. 助成金活動および賞等選考活動

1) 第15回マンダム動物実験代替法国際助成金

株式会社マンダムからの支援を受け、動物実験代替法開発支援のための研究助成活動を行った。

公募期間：2021年8月23日～2022年2月14日

審査期間：2022年2月15日～3月31日

助成期間：2022年4月1日～2023年3月31日

さらに、第16回助成金活動の実施に向けて、株式会社マンダムと協議を継続した。

2) 第9回化粧品等の安全性確保を目的としたNGRA(Next generation risk assessment)に関する研究助成金

日本化粧品工業連合会からの支援を受け、本年度からは動物を用いない新たなリスク評価アプローチによるケーススタディの研究に対して助成活動を開始した。当初予定していた募集期間を延長し、22年12月9日まで募集を継続している。

3) 各賞選考

2022年本学会の功労賞、学会賞、第7回LRI賞、AATEX優秀論文賞の選考を実施した。

○2022年功労賞

受賞者：武吉正博（一般財団法人 化学物質評価研究機構）

萩野滋延（株式会社資生堂）

松下琢（崇城大学）

○2022年学会賞

採択研究者：山下邦彦（株式会社ダイセル/大阪大学）Refinement 分野、

明石満（大阪大学）Replacement 分野

○2022年度日化協LRI賞

採択研究者：西川昌輝（東京大学大学院 工学系研究科・講師）Accurate Evaluation of

Hepatocyte Metabolisms on a Noble Oxygen-Permeable Material with Low Sorption Characteristics

また、第 15 回マンダム動物実験代替法国際研究助成の選考を行い、採択研究者を決定した。

○第 15 回マンダム動物実験代替法国際研究助成金

[1] 採択研究者：鎌田 弥生（順天堂大学 大学院医学研究科）

研究テーマ：神経共培養ヒト三次元培養アトピー性皮膚炎モデルの構築と新規鎮痒薬開発への応用

[2] 採択研究者：梨本 裕司（東北大学 学際科学フロンティア研究所）

研究テーマ：生体模倣デバイスを用いたがん転移におけるがん微小環境の影響の評価

[3] 採択研究者：古水 雄志（崇城大学 生物生命学部）

研究テーマ：ヒト膵臓がん細胞の三次元培養による薬剤耐性現象の再現に関する研究

8. その他

1) 理事長直轄のワーキンググループ設置

本学会の持続的発展を目的に、SDGs 推進 WG-学会の持続可能性を目指して-を設置した。

2022 年度は活動の方向性について委員会内で議論を重ねた。

また、最新の WEB 技術を学会運営や大会運営に積極的に活用すべく WEB 企画検討 WG を設置した。2022 年度は、オンライン講演会や企画、会議で使用するアプリケーションを調査・比較し、ZOOM を選定した。新たに導入した ZOOM は、本年 8 月 25 日にオンライン講習会「新しい挑戦へ向かう代替法の現在地－最新動向の理解－」で活用された。講演会は円滑に進行した。

以上